

教授 大山 慎一 (Shinichi Oyama)

研究シーズ

【教育・子ども・心理】

専門

英語教育/学校教育

研究キーワード

英語教育/カタカナ英語 (KE) /発音不安/
通じやすさ (intelligibility)



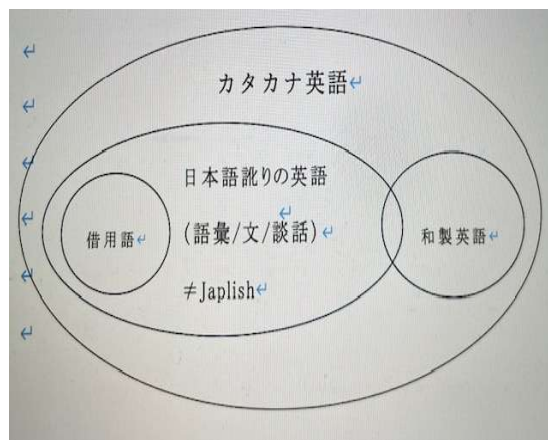
研究テーマ

Katakana English-based Pronunciation Model (KE-PM) の開発

研究の概要

英語学習や英語教育の世界では邪魔もの扱いされ、長年に渡り日本人の英語下手言説の代名詞的存在となってきた「カタカナ英語」に着目しています。本研究は、「カタカナ英語」を誤りとして排除するのではなく、教育的資源として捉え直した概念であるKatakana English (KE: 日本人英語学習者の英語使用を包摂的に捉える枠組み、右図参照) に基づき、英語の「通じやすさ (intelligibility)」を重視した発音指導モデルとして「KE-PM」を提案するものです。

本モデルは、英語教師および学習者の発音不安の軽減と実践的な英語運用能力の向上を目的としており、教員養成や教員研修のほか、授業をはじめとする学校現場のさまざまな場面において応用が期待されるとともに、英語教師の専門性向上に寄与することを目指しています。



セールスポイント

大学教員になる前、私は県立高校の英語教師や県教育センターの指導主事などとして、長年英語教育の現場で働いてきました。その他にも、4つの高校で教頭や校長として学校経営に携わった経験も持っています。学校現場で役立つ理論や指導方法を、生身の児童生徒を相手にした授業においてどう活かすかを共に考えることができます。また、英語教育以外のさまざまな教育課題についても、解決に向けた実践的・臨牀的なアプローチを提案することができます。

想定される用途・応用例・活用例

- Katakana English-based Pronunciation Model (KE-PM) の普及と授業等での活用
- 英語の授業研究会や各種研修会における助言や授業改善に向けた具体的提案